

経済建設委員会会議録

平成23年11月4日	10時27分	開 会
	10時37分	閉 会

網 走 市 議 会

午前10時27分 開会

○佐々木委員長

ただいまより経済建設委員会を開会いたします。本日の委員会ですが、第5回臨時会で付託された意見書案1件について審議いたします。

意見書案第1号T P P交渉への参加を行わないよう求める意見書提出についてを議題といたします。

皆さまから御意見をいただきたいと思います。

○近藤委員

T P P交渉に関しては、昨年の11月改選前にも意見書が上げられていて、参加をするなどという意思表示を議会でも採択されているところですが、この4月に改選を経て、また国際情勢もT P Pをめぐる議論が進んできているということ踏まえて、改めて交渉へ参加しないように網走市議会として意思表示をする必要はあると考えておりますので、意見書案は可決、提出すべきだと考えております。

網走は一次産業主体であり、そこに対してT P Pに参加することは大きな影響があるというふうによく言われております。この意見書の提出は賛成ですけれども、考えなければならないのはT P Pに参加をしないでこの先どうするのか、ということも考えなければならないだろうと思っております。この意見書の内容とは関係のないところなのであえて言いませんけれども、基本的にはこの先国を開いていかなければならない国際情勢にはなっていくと思えます。

今回は米国主導で話が一気に進められている節もあるので参加をしないほうがよいと思えますけれども、この先まだまだ中国も力をつけてくる。アメリカもこのままではいけないだろうということで、関税撤廃を求める圧力というものはこの先何度もこの国に降りかかってくると思います。そのときに農業漁業は今のままでよいのかということを実地に現場の皆さんと一緒に考えていったほうがよいと考えております。

○山田委員

私もT P P交渉への参加については反対ということで。皆さんと同じ意見ですけれども、やはり先ほど近藤委員が言われたこともありますし、この前のオホーツク圏活性化期成会の集会で消費者協会の会長も、消費者としてはメリッ

トもあるが北海道網走市にいる限りは生産者も消費者である、将来北海道の農業とかそういったものが衰退していくのは間違いないという意見を言っておられました。私も当然そうであると思えますし、北海道新聞によると年間2兆1,250億円が減少をするといわれております。

そうすると私たちの住む網走も関連産業で生きていますので今回は反対をしていく。小規模農家は離農を余儀なくされるというふうに言われておりますし、政府は大規模農業に変えていくというようなことは報道されていますので、この新聞が本当であるとすれば当然それは反対していかなければならない、そういう立場で今回の議場での反対については当然やっていきたいと思っております。

簡単ですけれどもそういう考え方でよろしくをお願いをしたいと思います。

○七夕委員

私もT P Pに対するこの意見書は賛成したいと思えます。

ただはっきり近藤委員からも言われたように、国内情勢をこれからどのように対応していくのかということを見えない中で進むということは、これはかなり皆さん不安を余儀なくされていることだと思います。これは国としての説明責任を果たしながら前に進んでいくことが条件であると思えますので、そこをしっかりと見据えた中でやっていただきたいというふうに考えております。

今現状としてはT P Pに対するこの意見書案は可決ということで進めていただきたいと思えます。

○平賀委員

私も賛成ということでお願いしたいと思えます。

ちょうど100年前に関税自主権が回復された節目の年であります。それも先人の努力によるものですが、それが外圧に近いような形で失われるようなことになるのは、やっぱりあってはいけないのだと思っております。むしろ日本政府の努力によって何らかの形をきちんと提案すべきでありまして、そのためには国内でのさまざまな国のあり方を含めた議論を今はすべき時期だと思います。

そういった状況の中で秘密交渉主義のT P P

交渉に参加するということは方策としてよくないのだと思いますし、基本的にＴＰＰは新自由主義の流れをくむ政策であると理解しております。新自由主義については国民が総選挙の中でノーを突きつけたと理解しているものがありますから、再びその方向に戻すような流れになってはいけないのだと思います。

また、国を開いていくということをよく言われますけれども、日本の関税は決して諸外国と比べて現状でも高いわけではないというふうな認識は持っておりますし、各種データを見てもその状況はあるのだと思います。

この環太平洋パートナーシップという形で行われておりますけれども、ＧＤＰの大きな中国や韓国あるいはＡＳＥＡＮ諸国が入っていない状況の中で、いったいどこが環太平洋なのだというでもありますし、ＧＤＰから考えてこのＴＰＰに参加をしても、日本の工業製品がさらに売れていく余地というのは参加対象国の構成を見てもほとんどないのだろうというふうに思います。

むしろ日本の国内の財が今回のＴＰＰ対象国に輸出する可能性のほうに極めて大きいものでありまして、そういった意味でも交渉というのは適切ではないのだろうと私は思います。今はＦＴＡ等の２国間協定をきちんと進めていくということを検討すべきだと思っております、特に参考にすべきは、中国と台湾の間でＦＣＦＡという事実上のＦＴＡを締結していますが、きちんと中国と台湾の間でも主要農産物については関税措置について例外規定を設けた形で、それぞれの産業に配慮した形で協定を結ばれている現状があります。さらに今はアメリカよりも中国のほうに貿易相手国として大きくなっている現状もありますので、そちらのほうの交渉も見つめながら国策としてきちんと考えてもらわなければ困るということもありますし、地域の産業を守るためにもＦＴＡやＴＰＰ今の時点で認めるわけにはいかないと思いますので、ぜひ可決ということでお願いしたいと思います。

○栗田副委員長

私も皆さんの意見とほとんど同じ考え方です。とはいえ、政府のほうでは緊急の課題として参加表明をするという情報が今流れている中で、市議会として委員会を開きながらこういう形で

緊急の決議をしたいと上がっている議題ですので、ぜひとも可決をしたいと思います。

いろいろな考え方と議論はあろうかと思いますが、とりわけこの網走は農業分野が一番の課題であり、その環境は日本の中でも特化したやり方をしており、３品目中心の農業経営者にとっては非常に危機感を覚える状況であるということは最大の理由だと思います。全体の流れはいろいろな方向は別にして、網走市民としては今の段階でこの協定に参加をされるということは非常に困る。政府の動きに歯止めをかける役割を考えながら、しっかりとこの提出議案を網走市議会として上げたいと思います。

○佐々木委員長

全委員の意見を伺いまして、意見書案は賛成という意見が出ておりましたので、全会一致をもって原案可決すべきものと決定したいと思います。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○佐々木委員長

意見書案の文言についてですけれども、皆さんにお配りしております意見書案の文言でよろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

○佐々木委員長

それではこの意見書案で提出をしていきたいと思えます。

そのほか何か理事者のほうから案件ございますか。

（「ありません」の声あり）

○佐々木委員長

委員のほうから何かありませんか。

（「ありません」の声あり）

○佐々木委員長

それでは、以上で経済建設委員会を閉会いたします。

午前10時37分 閉会